



全面展開協和會運動

思想戰的勝利是興亞先決要件

協和會文化部長 何 春 魁

旬刊每月三回發行
發行人 文教部教化司
發行所 文教部教化司
本報信購部(送刊別)
國內一月份全 四圓
國外一月份全 五圓

迎康德十二年的決戰新春、我會員們不能不檢討過去和瞻望將來、我協和會員在過去十餘年間所造的功績、固然是很多、可是協和會運動受時局的限制、漸之脫離他本質的也不少、時局愈緊迫、而行政也愈加強、這是自然的趨勢國民對於國家的奉仕隨時局的要請也愈加多、這也是當然的道理、可是國民對國家的奉仕、是不滿足國家的要求、和專賴行政力的增強、是否能收到充分的効果、這是兩件重要的問題這兩件重要的課題、必須依賴協和會運動去解決、不過檢討過去的協和會運動沒頭的推行國策、反到忽略了以上的兩點結果協和會的活動、和行政發生了混同的誤解、所以世人才感覺協和會沒有用處、其實舊協和的組織、例如各級委員會

和會員的行動、不可忽略了現實的問題、處理現實問題的時候、必須反映着協和會的根本精神、能够這樣、會運動才能展開、國民才能歡喜樂從呢、國民能够真正理解協和會精神、對國家前途的發展才有希望對大東亞的建設才能期待、有共同的希望和期待、才能發生共同運命的感覺、換言之、共同運命的感覺、是由對於道義精神的憧憬、和對於功利主義的失望而發生的、對於道義精神的憧憬必須認識道義的崇高性、同時還須由道義顯現出來的現實面來實證、對於功利主義的失望、是由於功利主義理論上的缺欠、和功利主義現實的罪惡而發生的、功利主義是個人主義、自由主義、偏重於物質、僅知利己而不知利人、結果釀成社會上的鬭爭、和擾亂世界上的和平、在理論上的缺欠是很明顯的、至於功利主義暴露出來的現實面、由美英對世界的政策、足可以證明功利主義的罪惡來、美英把世界五大洲中的非洲、澳洲、和美洲、完全占領、作為他們的殖民地、使土著有色人種、漸漸歸於滅亡、就剩亞洲雖然是衰弱、可是還儼然的存在、可是危險到萬分了、印度、緬甸、已化成英帝國的奴隸、菲律賓成了美國侵略中國的階梯、中國受了

他們政治上的支配、國內不得統一、經濟上受了他們的榨取生活不得安定、文化上受了他的摧殘、精神上失去了憑依使中國國勢一天比一天的衰弱東亞各國家各民族、因為都飽嘗過美英侵略的苦味、所以都想要求自己的獨立和解放、因為急於求自己的獨立和解放、反到疎隔了互相的提携、忘掉了彼此的援助、給美英可乘的機會、從中離間挑撥、弄的亞洲內部不和、不能互相信賴、幸而自大東亞戰爭勃發以來、東亞十億民衆、漸漸覺醒、求自國的獨立和解放、須在興亞運動去求、於是日以日滿為根據、展開了興亞的濶步、不過興亞的意欲雖然昂揚起來可是對於興亞的進行上、仍然是未免過於遲緩、遲緩的原因、是因為對於興亞的期待不明確、自從大東亞共同宣言發布以後、各國各民族、對於興亞的期待才漸之的明確了、可是對於興亞的決心、還是沒達到堅強的地步、本來興亞是我們十億民衆最終的目的、戰爭也不過是除去興亞障礙的手段而已、對於最終的目的若能十分的期待、那末對於達成目的也必得用十分的決心、對於達成目的、若有充分的決心、那末對於遂行手段、才能不辭一切的、可見目的若明確、決心若堅強的話、

十億民衆團結一致完遂戰爭是可能的、使十億民衆對於興亞目的要明確、對於完遂戰爭要有堅強的決心、必得怎樣才能作到呢？在滿洲國只有展開協和會運動、在東亞只有展開興亞的運動、所以我們協和會、自容歲發表戰時工作要綱以來消極的展開了思想戰、不過我們要認清思想戰的勝利、不是專專在於發現和闡明美英已往的罪惡、和敵思想的缺欠就能得到的、凡我會員、不論民族不拘身分、都須徹底明瞭、對於所有的現實問題在會運動上必須反映着協和會精神率先由自己去躬行實踐、藉現實去昂揚會精神、這才是思想戰的正道、能如此、國民對於會精神才能理解、對於國家才有希望有了理解和希望、就是受任何的艱難困苦是不成問題的、能够如此、對於國家的要請當然會歡喜力行的、思想戰的勝利、是武力戰的根底、武力戰是興亞的先決問題、這就是在戰時的會運動、必須集中於思想戰的道理、這是我們會員應當徹底理解和斷然而須實行的。

啓 事
敬啓者本刊第九十六號與第九十七號合併刊出此誌
諒察
教化通信編輯室

採炭現場にみる

いざ・ひのきしん隊の活動

にくい米英討つまでは
かよはい女の腕なれど
やつて来ました〇〇へ
掘つてみせませす黒ダイヤ
これは〇〇炭鑛に挺身する
女子ひのきしん隊の隊員が作
つた唄の一節である。彼女等
の意気である。

この炭鑛へは三浦幸彦隊長
の率ゐる廣島隊三百余名が出
動してゐるがこの隊の特徴は
女子隊員の多いことである。
女子の坑内作業は昭和四年
禁止せられた。これは主とし
て母體保護と風紀問題とによ
るものと思はれるが、この苛
烈なる戦局の推移に順應して
再び解隊せられ、その先頭を
切つたのが、この「いざ・ひの
きしん隊」の女子挺身隊員で
ある。世間の注目の的となる
の、當然である。そこに率ゐ
る三浦隊長の人知れぬ苦勞が
ある。氏はいふ「夜もおちお
ち眠れない」と、狎れぬ仕事
超重労働に従事する隊員の保
健問題、當然起るであらう。對
家庭問題に「する心遣ひ、世
間のお、わく等等おそらく頭
の休まる暇、ないことと思は
れる。
彼女等は主として選炭等坑

外作業に従事してゐるが、中
には坑内作業のうちでも最も
劇しい切羽に挑む逞しい女子
隊員の數も少なくない。山内
炭坑における女子隊員がこの
狎れない劇しい作業に従事し
乍ら出勤率よく九十パーセン
ト(一般坑士の出勤率は八十
五、六パーセント)を維持し
その能率も就業頭既に熟練
者の七十パーセント(一般人
は六十パーセント)とみられて
居る)を出したことは、これ
が信仰心の發露とはいへ誠に
驚異の成績であるとは芳雄鑛
業部長の感想であり、彼女等
の能率は月月十パーセント方
上つて居るといふから七月以
來四ヶ月余、現在十一月既に
熟練者の域に達してゐるとみ
られ、彼女等の努力がしのば
れる。ここに働く女子隊員の
出身は主として中流家庭の娘
や主婦であるが中には陸軍少
將の未亡人あり出征軍人の夫
人あり出役の日に乳兒を離乳
させて老母に托して來た人も
ある。彼女等が「管長様の指令
に接したとき感涙の余り仕事
の内容とか自分の體力とかに
ついては何等考慮することな
くお國のお役に立てばと進ん
で参加を願ひ出た」といひ、

又「作業着も準備して來たの
に、ここで仕事着も配給して
頂けて却つて濟まない」とも
いふ、何といふ熱情的なまた
謙虚な心境であらうか。謙虚
な心境といへばここでの事故
は非常に少ないが某女子隊員
が落盤に襲はれて瀕死の重傷
を負つたとき意識不明のうち
に口走つた最初の言葉は「濟
みません」といふ言葉であつ
た、病院に收容せられて後も
遂に苦痛や不満を訴へず彼女
の口をいつて出る言葉は「私
のお掛けして中譯ありません」
との一語に終始したといふ。
何といふ崇高な心境であら
う。宗教に徹する者にしては
じめて出る言葉であり、三浦
隊長は勿論鑛山側の幹部も口
を極めて賞讃し、感激してゐ
た。

勿論現在の炭鑛—聖戰完遂
の重要部門を擔當する炭坑は
監獄部屋、私刑等を連想する
嘗つての鑛山とは全く趣を異
にし採炭報國の赤誠に燃えて
全山火の玉の如くひたすら採
炭に挺身する息詰るような緊
張が漲る崇高な戦場であり國
に報するの自覺が躍し出す明
朗な事業體である、完備せる
宿舎、配給、厚生施設、整然た
る秩序等々、筆者が幹部と共
に視察した折坑の内外を間は
中途中に會ふ坑士がすべて姿
勢を正して學問の禮をし、坑
士の家族がにこやかに會釋し
て通る有様は全く一般を異る
ところなく否むしろそれ以上
であり全山一家の平和境であ
る。然し眞暗な坑内でダイナ
マイトの轟音と落盤におびや
かされなら過激な労働に明け
暮れる坑山の生活が潤を失ふ
ことは否めない。このとき良
家の、謙虚な信仰を持つ女性
が山に現れたこと、而かも彼
の女等が虚心坦々として坑士
と共にひたすら同一作業に
挺身する姿に接して如何に感
激したことか。全山に一段と
明朗の氣が漲つたことは想像
に難くない。

以上は主として女子隊員に
ついての話であるが、この心
境は男女隊員の別なく堅持さ
れ、或る男子隊員の如きは手
廣く經營しつつあつた家業を
閉鎖して参加し収入の點など
三分の一或は四分の一に減じ
乍ら常に感謝の念を忘れず獻
身的な努力をつづけるなど、
作業の性質上稍もすれば荒び
勝ちな炭坑の氣風に及ばず影
響は大きく、これが單に炭鑛
間のみでなく老幼男女日鮮系
が軒を連ねて群居するこの
炭鑛街全體及んで居る。

一つの女子後山が晝夜の別な
き闇黒の坑内に立働くる話を
聞いたとき多大の危懼を持つ
たが現場に彼等の働く様をみ
て杞憂に過ぎかつたこと、否
彼等のひたむきの精進が曠す
祭團氣に却つて神々しい迄の
崇高さが漲つてゐる事實を體
得して俗人の思ひ過であつた
ことに心恥しく感じた。採炭
報國の熱誠の描く感激の譜で
ある。

まだある、働くこれ等の女
性が交替で上つて來るとき炭
塵と汗にまみれて男女の見分
けは勿論顔は目鏡鏡の如く頭
の前後も定かでない程に汚れ
た彼女等が、汚れることが始
めからわかつてゐるにもかか
ほらず彼女等が入坑するとき
薄化粧して線込む事實であ
る。何といふ高貴なたしなみ
であらうか。ここにも日本女
性のゆかしさに筆者は臉の熱
くなる種の感涙を覚えた次第
である。

採炭戦は今日もつづけられ
てゐることであらう。張つて
來る乳房を押へて泣いたとい
ふ、あの若い朗らかな婦人は
今日も亦あの無氣味に光る切
羽に立ち向つてゐることであ
らう。
彼女の女等の健闘を念じてやま
ない。

天理教の時局活動は前述の
「いざ・ひのきしん隊」の活動
に主力が注がれてゐるがその
他毎月八日國威宣揚祈願、軍
病院の慰問、航空機、金屬品
の獻納運動をはじめ増産、貯
蓄等に果敢な運動が續けられ

るほか本部の諸施設を公用に
拱しあの廣州本殿の銅瓦を
擧げて献納するなどその時局
活動は華々しく展開せられて
ゐる、就中對外活動は各宗各
派のそれが貧困を極める中に
断然光つてゐる。

滿洲における天理村開拓團
の設置は日本の對滿政策に呼
應して逸早く着手せられ同一
信仰に結ばれた團員の結束も
固く施設、經營共に完備を誇
り今年十周年記念祭を舉行し
たことは周知のことであるが
その布教陣をみるも大陸では
滿洲(新京)區東洲(大連)北支
(北京)中支(上海)華中(南京)
南支(廣州)にそれぞれ傳道廳
を開設し南洋、北米、布哇、
加奈陀ブラジル等にも教會を
設立して布教に當り、支那大
陸占領地には本部から傳道班
を派遣し中國民衆の間に深く
喰入り、日語學校、授産所、
保育所、醫藥施設等の附帶事
業を併設して傳道と文化工作
を一體化して民衆の信仰を得
現に數千名の中國人信徒を得
得してゐるといふ。

この輝かしい成果は然し一
朝一夕に得たものでなく本部
のたのまざる研究と宏遠なる
理想に淵源するものであり、
天理外國語學校及び天理女子
專門學校をはじめ各種中等學
校の經營はその經驗の一端で
あり、就中兩專門學校は各地
原住民を對象とする有秀なる

布教師の養成を目的とし、そ
の卒業生は外地原住民布教陣
の推進力である。

天理外語は昭和二年設立せ
られ、卒業生は現在一千名を
突破し、過半は海外に進出し
て活動してゐるが時局下各界
の要求多く現在布教に従事し
てゐる者は極めて少ない。然
し彼等が宜撫班員として或は
通譯となつて活躍し、原住民
に對する豊かな體驗を積んで
後に展開するであらう布教工
作は期して待つべきものがあ
らう。

天理女子專門學校は天理女
子學院の後身として昭和十五
年三月專門學校令によつて設
立せられ支那大陸に進出して
傳道に、宣撫に或は育英事業
等に挺身せんとする女性に支
那語を専修せしめんとする日
本唯一の女子專門學校である
同女專卒業生の動向は未だ特
筆すべきものはないが天理外
語の卒業生と並んで大陸布教
陣營の輝かしい將來を約束する
ものである。

これと並んで現在注目され
るものに天理第一、第二兩中
學が組織する愛國少年團があ
る。支那大陸の風雲急を告げ
る昭和十年現地における人的
資源の要望に應へて二月第一
回の愛國少年團を現地に送つ
たがこれ等天中少年の燃ゆる
愛國の熱情は軍直接の仕事に
捨身奉公し軍當局の信頼厚く

以來毎年募集に應じて現地に
派遣せられる者既に〇〇名に
達し中には敍勳の恩命に浴し
た者もある。

外地における天理教の時局
活動について顧みるとき筆者
は上海事變當時同地在留民の
總てが擧げて軍に協力し、目
覺しく活動した幾多の事實を
耳にしたが中でも天理教徒が
戦火をおかし敵陣をくづつて
陸戦隊や日本人街の糞尿汲取
りを一手に引受けて奮闘して
事實を忘れることが出来な

再進一步增強儲蓄

我們在奇烈戰局推演日益激
化的情勢下、關於確立自體實
戰的諸要請、可以說早已浸透
於人人之心、並對增強戰力之
諸部門、亦均卓樹相當的輝皇
實績、不但博得親邦日本朝野
的深甚感謝、由小磯首相及重
光外相兼大東亞相一再闡明其
謝忱並激勵之旨、且頗資爲共
體國內諸國諸民贊仰與借模、
是乃舉世共觀之事實、非徒托
誇大之宣傳可比。但今美英未
滅、大難臨已、且頑敵浸攻勢
益洶洶、是以我等增強戰力之
積極性、不但不容稍弛、勢必
再接再厲、振奮有加、其誓不
與彼共戴一天的決意、分頭努
力、向前邁進、乃足以確保必
勝、達成正義之戰爭目的的最
終全功。這是我等各階層務須

ここにこれを想起してこの項
を終る。
天理村の
擴充強化

今年建設十周年を迎へた天
理開拓村では、時局の要請に
鑑み、天理開拓村の擴充強化
を圖ることになり、教徒中よ
りの希望者募集に着手し既に
百數十名の應募者があり今後
讀出の趨勢にあるが本部では
來年春耕期定にこれら入植者
を引率渡滿するやう着々準備
を進めてゐる。

一致確任の大義、亦即亟宜振
起精勤苦幹的共同目標、直至
達到全勝之日。

對此諸要請、若分門別類說
來、實有不可勝數之繁、且增
強戰力諸分重之各職域、亦皆
各呈其重點、圖進的雄姿無煩
喋喋。茲猶不能已於言者、惟
關於必勝儲蓄一項、係人人容
易爲力之事、上而耄耋老人、
下而黃口幼兒、以及疲瘵廢疾
之徒、皆可有所貢獻、即或一
文之微、亦不嫌其少、所以在
增強戰力的諸要請中、惟有儲
蓄爲最簡單易行、不拘多寡、
不拘時日、不拘地點、隨處皆
可供出、只看對此熱意的高低
而已。當此一賭大東亞興廢的
危急存亡之秋、有志之士、或
挺身殺敵、血濺征袍、或勤勞

增產、汗流浹背、若安處後方、
對區々財力、再吝於儲蓄、縱
然不見責斥、捫心何忍、且擬
身殺敵、與勤勞增產諸戰士、
尙復有勇於奉其血汗所得之薪
俸資材、往々不憚傾囊儲蓄獻
金一般大衆、若稍存觀望滯
之意、能不受良心的呵責嗎、
可是觀察儲蓄的實績、不能不
說猶有相當的遺憾。

固然達成擔當目標額的省市
縣旗、頗居多數、而未完成擔
當額數者、雖所差無多、但既
相形見絀、亦當自覺雄雌、此
等擔負責任者、及其民衆、應
一致奮勉、務於此儲蓄年度內
之三月以前、完成天職、方
告無愧、即以達成擔當額之地
區、亦當更進一步、期對增強
儲蓄運動、奪取榮譽之錦標。

因爲戰爭無一息停頓、即戰力
須刻刻增強、人生日日所收入
與消費、即財力日日所積存或
節餘、所以對增強戰力的必勝
儲蓄、就當順應戰事的推移、
逐步強化、不容作自裕的拘
束。現下正在儲蓄增強期間、
又迫在儲蓄年度將終之際、轉
瞬即屆四月一日開始本年度的
新儲蓄運動、更值美虜侵寇肆
逞的時機、所以我等對增強戰
力之道、必須分頭並進、尤應
對必勝儲蓄、要再進一步、勵
躍增強、以充分昂揚戰意、並
顯我們的必勝精神。

充實防空強化自戰

十八日康德十二年度第二屆

防空日由於戰局的推移演變全國民眾都於增產赴戰的決心下對於防空防護萬全的心情、早已昂揚起來、做着有組織有秩序的防空工作、這是我國防空生活體制下、展示民衆集團活動的莊嚴象、如此有秩序的動作、有組織的訓練、確信能獲得許多生活上的新體驗、而加深了我們對於生活的新認識

自從去年敵機會數次來襲我國南滿地域、而我北滿地域亦有被襲的危險、是以我們已是置身於敵人的空襲圈內、頭上廣闊的天空、無晷無夜、隨時隨地都有片刻變成戰場之虞、我們的住宅、戰場、都有隨時遭受敵機轟炸的可能性、但我們有集團兩組織的活動、是極有偉大力量的、期藉着這種活動、可以把我們的住宅戰場保全、即便損失也要止於最小限度制敵人無所逞其兇頑殘酷之性各個人應發揮各個人的力量、勿自餒、勿退縮、要勇敢、要向前、把許多個人的力量總合團結起來、成爲一顛撲不破的

集團力量、這種集團力的發揮

就是強化自戰、也是戰時下最切要的生存方式、藉着今日的防空、我們可以體驗出來集團活動力量的如何偉大、並能藉以養成許多適應戰時生活的實際能力、更能加深對於防空生活化的認識、因爲自戰是聖戰勝利的先決條件、而充實防空又是自戰力量的集團整備、所以我們苟不願凝結防空的力量、則已、欲凝結防空的力量、用以應付來襲的敵機、唯有充實我們的防空陣、實言之、即須使防空生活化、

我們既然規定了每月廿八日

爲防空日、但是我們不要以爲

應該注意防空的日子、每月的期日、如果那樣、便是大錯、因爲敵機之來襲是無定時的、兵書云：『出其不意、攻其不備、爲致勝之要着』昔人用兵如此、今人作戰、又何莫不然、敵人飛機之來襲、正欲窺我無備之時、始敢施其技倆、否則燈蛾投火、自焚其身、敵人非愚、決不爲此、所以無日不是防空日、無時不是防空時、依着我們『時時防空』的標語及『有備無患』一語、作爲我們的座右銘、把生活、防空、永遠連綴在一起、直至新秩序建設工作完成之日而後已、因此、我們要把今日的防空生活實例、活用在日常生活裡、益自淬礪、勿懈勿怠、以便我們的防空生

活體制更完整、更充實的強毅

起來、萬勿存有微幸心理、以爲敵機雖來投下炸彈、亦不致落在我的住宅戰場、易用亟急充實防空耶。

邇來、當局鑑於敵機來滿偵

察飛行頻繁、期確保非常時局下民衆生活安定、一面特配非常時用食糧、每人十五公斤、一面決定時局金融對策、有錢存于銀行時、任意兌換、使處于非常時局下的人民之生活、不受絲毫威脅痛苦、這是多麼周到呢、我們應該爲了避免意外的損失、除將錢款存入金融機關外、更應體會當局對我們的顧慮周詳之心、趁此日暖風和的春天裏、作再進一步的整備防空陣容、使消防救護等訓練工作展開活潑化、藉着我們的

生活、步入新的角度裡。

總之今日是我們受防空新教育的日子、明日是我們活用受防空新教育所得的知識經驗之日子、後日如此、大後日也是如此、時時刻刻莫不如此、敵機雖將大批襲來、而我北滿地域亦有被空襲可能的危險、我們苟已將防空陣容、充實整備、有何懼哉？但勿予敵機以微隙、必須防空生活化。

防空不是口頭禪、這是吾人

受刑者赴增產戰線

授工作技術訓爲善良工人

司法矯正總局、頃爲勸受刑者與矯正輔導院收容者之增產熱意、本年度決將其作業配置分配爲院內三〇%外作作業爲七〇%領土力於增產戰、同時對院內作業、亦行擴充施設、俾劃期的增產、院內作業之本

年度增產目標額、比去年約以其倍額之八千七百萬圓爲目標、則主要作業、爲洋裁約五倍、此乃以關係勤奉隊協和會關係之學校等制服爲主、其次爲訓練靴約六倍之大增產、此外印刷木工、肥皂、槍劍道用防備水

管子等平均約增產一倍、又本年度起、更對麻袋紡織作業、動員女受刑者實施之、對此已有一部開始作業、始將被服皮革、印刷、木工、油脂等官需承受之勢、故其成果、頗爲各方所期待、又外設作業、以此去年度增產三倍爲目標、概其主力於煤礦、製鐵等、其他重工業、關係、戰力增強方面、對此承辦方面爲期釋放後之身分萬全、滿鐵撫順煤礦、乃率先

結成社團法人司法鍊成保護會對釋放者並進此者、施以精神體育訓練、以及灌輸工作製作運輸、採煤制士等工作業技能使其於釋放、成爲一善良之練成工、並保護其生計等、又矯正總局、亦於撫順設立矯正輔導院、自本月廿五日起開始收容授以精神訓練、同時在撫順煤礦少年技術工員養成所、實施技術修練、使釋放後成爲增產戰士。

空襲時に於ける

日本教化界の活動要綱

戦時宗報會より通告

戦局の苛烈化に伴ひ敵機來襲漸く烈しく本土亦眞に戰場となれり此の緊迫せし状態に於て必勝の信念を堅持敵の神経を破壊し不屈の戦意を昂揚し戦力増強を期すると共に罹災者を救護激勵し以て國家の使命を達成し奉るの誠を竭すことを目的として大日本戦時宗報會にては全國都市町村教會寺院を對象として空襲時に於ける活動要綱を左の如く決定通牒した。

一、方法一寺院教會に於ける防護策一本尊過去帳寺寶の保護を期すること二、寺院教會内の老幼者の疎開に萬全を計ること三、防空施設を整備すること四、地域内並隣接地區内寺院教會の相互救助組織の整備を計ること五、寺院教會の社會活動を以て防空、罹災者の救護、信徒は國家たるべき使命を以て防空、罹災者に率先挺身し無言の身業說法により安心と敬意の昂

揚を期すること六、罹災者收容に對する建物及境内地等の解放と救護活動の徹底を期すること七、死體の一時收容及其の追弔を遲滞なく行ふこと八、罹災者の親戚知人への通信奉仕其他罹災者に對する物品の供出慰問の徹底を期すること九、被害地に於ける慰靈祭追弔會の執行と敬意昂揚布教徹底を期すること十、組織教宗派、教團又は本會支部(之れに準ずる團體)は前記の活動を救護力ならしむる爲適宜地區別に組織を整備し一地區毎に連絡責任者を定め之を本會に報告すること十一、本會連絡責任者に對し適宜の指令を發すると共に情況により現地に人員を派遣連絡せしむ、防空敢闘精神昂揚の展開一日十日より同二十日迄の旬間を表記週間とし前記事項整備を期すると共に教宗派教團は左記

運動を共々施すること八、寺院教會として其の所屬信徒に對し常會其の他の機會を利用して防空敢闘精神の昂揚を圖らしむること九、寺院教會をして被害地の市町村役場と連絡困難者に對する慰靈祭追弔會を執行せしむること十、家庭訪問による祈願祈禱行ひ御守御札を授與し戰闘的信念の強さを計らしむること十一、殉難者を出したる工場又は産業戦士出動工場と連絡し特別布教師を派遣し慰靈祭追弔會祈願祭祈禱法要祈禮會を執行せしむること十二、疎開學童慰問激勵に對する慰問隊を派遣すること十三、父母を失ひたる疎開學童に對する大御實の育成を期すること十四、前記運動は教宗派の敢闘に於て全國的に展開の上本會に報告すること十五、本運動は文部省、防空總本部の後援のもとに展開するものなり

多年臨濟學院専門學校の當局は種々なる方面から研究中のところ、之れが施策として、禪學研究所二を設立し宗門官爲の人材を養成し、以て世界秩序建設に對處大東亞經濟の心的基礎を確立に、貢獻することとなり、宗務廳でも之れが趣旨に全幅的支持を與へ、今期宗會に當り案として提案豫算新設費三千圓を可決されたので、本部を専門學校に置き、宗内外の權威ある學者を網羅して愈々實現すべく目下開設に拍車をかけてゐる

右研究所の遂行すべき事業は、
第一は所員による研究で、禪宗學を中心として所定の方針に照し、原理、歴史、方策の三分科に亘り禪宗學の更生と向上を圖るもので(一)今後に於ける禪宗學の在り方に關する共同研究(二)現下並に今後の世界新事態に對處すべき布教原理、方針の綜合的研究、布教本資料の組織的紹介(三)其他原理的、歴史的研究(四)禪宗辭典の編纂等である(五)は研究員の養成で、之れは將來を代表するに足る宗教學者を輩出する爲(一)他の大

禪學研究所開設
臨濟宗會で可決
臨濟宗教學の興隆に就て、

學に留學又は專門道場に掛臨せしむ(二)所員を指導教授として所定の題目による研究(三)研究結果を發表討論の開催等を擧げてゐる

第三は出版其他で(一)紀要若しくは年報の出版(二)未刊の重要禪籍の出版(三)禪宗辭典の出版(四)標準禪僧叢書集の出版(五)近代禪匠の言行録資料の調査蒐集(六)禪籍目錄の整備(七)重要禪籍の寫(八)所員の著作及禪學に貢獻すべき著述に對する援助等である(九)因みに同研究所員臨濟宗の最高教學機關として出發するのであるが設立當初は豫算其他の關で研究員の入所は十名内外に制限し且より費を居つて進む計畫である

禪學研究所開設
臨濟宗會で可決
臨濟宗教學の興隆に就て、

學に留學又は專門道場に掛臨せしむ(二)所員を指導教授として所定の題目による研究(三)研究結果を發表討論の開催等を擧げてゐる

第三は出版其他で(一)紀要若しくは年報の出版(二)未刊の重要禪籍の出版(三)禪宗辭典の出版(四)標準禪僧叢書集の出版(五)近代禪匠の言行録資料の調査蒐集(六)禪籍目錄の整備(七)重要禪籍の寫(八)所員の著作及禪學に貢獻すべき著述に對する援助等である(九)因みに同研究所員臨濟宗の最高教學機關として出發するのであるが設立當初は豫算其他の關で研究員の入所は十名内外に制限し且より費を居つて進む計畫である

禪學研究所開設
臨濟宗會で可決
臨濟宗教學の興隆に就て、

東洋文化の光榮

第一回國民教化連絡委員會

歌教化司長訓詞

本年度第一回國民教化委員連絡會を開催するに當り一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

現下の戦局は諸子既に御承知の如く、洵に熾烈なる様相を呈して参りました。即ち大東亞に於ては比島を繞つて、大東亞の將來に重大なる關係を持つ大決戦が、現在只今晝夜の別なく戦はれてゐるのであります。一方歐洲に於ても東西兩國境線に於てドイツの興亡を賭する決戦が戦はれてゐるのであります。現在の一瞬は實に世界史を劃する一瞬であると思ふことは、先刻皆御承知のことと思ひます。洵に東亞の歴史の上に於ても容易ならぬ一瞬であります。東亞史上の如何なる時機と雖も今日程重大なる時機は未だ嘗て無かつたと云ふことが出来ると思ひます。

うか。私はこの點に就て色々私なりに考へて見たのであります。次が次の如き考へに於て一つの信念に達したと思ふのであります。即ち復興とは過去の光榮を取戻すことであり、解放とは嘗ての自由を復活することであり、かく考へますと復興と云ふ意味の中には過去の光榮を蔽ふ邪惡なる力を排除すると云ふことが無ければなりません。又解放と云ふ意味の中には過去の自由を捉縛する暴力を切斷排撃すると云ふことが無ければなりません。私は斯く考へ、夫では東亞には過去に於て米英文化に比肩して更に光榮と觀すべき文化があつたであらうか、或は又米英の侵略を切斷排撃して復活すべき自由があつたであらうかと疑つて見たのであります。私は茲に至つて過去に於ける東亞の文化の實相と東亞の自由とに對して思ひを致したのであります。歴史は吾々に次の如く教へてゐるのであります。即ち過去の如何なる時期に於ても東洋の文化は西洋の文化に劣つてゐなかつた。否、西洋の文化とは凡そその質を異にしてゐる精神文化が蔚然として此處に

花咲いてゐたではないかと教へてゐます。米英人は文化の母はギリシヤであると云ひます。而してギリシヤ文化の基礎は哲學であると申します。然し乍ら、吾々は春秋戰國時代のあの百花燦爛たる文化を持つたではありませんか。哲學を持つたではありませんか。而も其の哲學も彼等は個性とか、自己とかを中心にして考へを進めてゐたのに對して、吾々は道——人倫の常道、天地の公道を中心として考へてゐたではありませんか。又漢代を例に取つて見ても、支那、滿洲、朝鮮等の古墳より發見される漢代の文化の跡は、ヨーロッパの西歴二三世紀の文化に比し遙かに高尚にして優れたものを感じるのであります。ローマの士女を喜ばしめた絹は實に吾々が東洋から將來されたものであります。魏晉南北朝時代もヨーロッパの暗黒時代と比すれば、如何に優越した文化を持つてゐたかは既に東洋史學者の指摘するところであり、唐宋時代の文化の盛觀は、米英の學者の嘖然とするところ、此處に多言を要しないところであります。又元代に至つては遠くヨーロッパ迄、東洋の進出した時代であり、彼の世祖忽必烈に仕へたるマルコポーロをしてその都、上都を世界最大最美の都市にして

地上の都に非ずと迄歎賞せしめた文化を誇つてゐるのであります。又明代に於ても、清代に於ても東洋の文化はヨーロッパの文化に劣らなかつたことはヨーロッパから派遣された天主教の宣教師達が、大東亞戦争前東亞に來てゐた宣教師の如く傲然と其のヨーロッパ的生活様式を固守するところが出来ないうで、次第に東洋化されていつた點に於ても之を了解することが出来ると思ひます。

又人はよく世界の三大發明として、火藥、羅針盤、活版術を挙げますが、この三大發明は凡て東洋に其の源を持つものではあります。更に、吾々は親邦日本に於て過去の之等の文化が神代より連綿として續いて來た國體の下に融合歸一され、崇高にして優美なる姿を現實に見るではありませんか。茲百數十年間の米英の侵略に依つて失はれんとした東洋文化が西洋文化に對抗して特異なる存在を續けつゝあるのは親邦日本が儼然と之を護持して來た爲であります。

かく考へますと、過去、東洋に於ては光榮ある文化があつたのであります。又之を享受する自由があつたのであります。この光榮と自由とを復興し、解放するために吾々は何者をも犠牲にして戦はなければならぬ責務があると思ふのであります。而してこの崇高なる責務の爲に戦つてゐるのが實に現在の戦であるのであります。若し假に、この戦ひにして敗れたと假定致しますならば東洋文化は再び其の光榮と自由とを取戻すことは絶対に出来ないのであります。否、東洋文化は再びこの地上に於てはその生々發動する姿を見ず、ヨーロッパ文化の涇流たる輕薄なるアメリカ文化が滔々として東亞を蔽ふて仕舞ふのであります。

吾々の祖先が誇つた忠誠を以て本義とする國家生活、孝悌を中心とする家族生活、夫婦の和、兄弟の友、朋友の信の如き諸道徳は一個の價値をも失つて仕舞ひ、動物的思想が支配するのであります。

聖人孔子は禮樂の蠻夷によつて棄されるのを死より懼れたのであります。「管仲微りせば吾左衽せん」とは魯に風俗さへ夷化することを耐へ難き屈辱と感した吾々の祖先の率直な感じを述べたものであります。況んや全く異質の文化が、思想が、生活様式が、吾々の過去の光榮ある文化を抹殺し、其の上に強制されると致しますならば、かくの如き屈辱の中に耐へ忍ぶことが出来るのでありませうか。伯夷叔齊は周の粟を食まず首陽山に餓えたのは、大義滅却せる

世界に於て生活するを潔しとしなかつた爲であります。吾々はこの光榮ある東洋の文

由を復得するたりに決死、以て之が侵略者を撃破しなければならぬのであります。今や、時局は非常なる時であり

米英の抗戦力の頂點を衝いてゐるときであり、この頂點をさへ突き崩したならば、敵の

東亞侵略の野望は根底より覆へる時でありまして眞に神機と云ふべき時であります。我

が親邦皇軍の將は、比島を、ビルマに、一機一艦を屠る體當り精神を以て、この驕慢なる敵の物量攻撃を撃破してゐる

述べこの戦ひは何んとしても戦はねばならぬ戦ひであることとを述べたのであります。特に宗教教化團體に職を奉ずる諸君にとつては、この戦ひ

は將に諸子の生存の戦であるのであります。何故ならば諸子の屬する宗教教化團體の教

義、思想は概ね東洋文化に基礎をおくものにして、東洋文化の繁榮のもとに始めて其の繁榮を以し得られるものであ

るからであります。若し東洋の傳統が根底より破壊されるとするならば諸子の屬する宗教教化團體も再び其の繁榮を期することは出来ないものであります。

諸子は今次戦争の持つ意義の以上の如く重大なることを深く考へられ、今年は昨年に倍する熱意と努力とを以て國民教化運動に挺身下さらんことを切に御願する次第であります。

這並非過言。尤其是在過去以往東亞の歴史上、迄未曾有過像現在重大時機的。

不過當此非常時局、我暫時先把興奮抑制住它、願把這前古未曾有的時局眞象、和它的本質、略爲加以檢討。

大東亞戰爭、很有些人說、這是「亞細亞復興的戰爭」、是亞細亞解放的戰爭。可是這種語言的所在、畢竟是什麼呢

我常做過種種思考、結局似乎已竟達到了像下邊的一個信念就是復興這句語彙、是恢復過去光榮的意思、「解放」是「自由的復活」的意思。如此設想、則復興意義之中、還有

着應當剷除蒙蔽過去光榮的邪惡的意思。解放的意義之中、也有應該排擊束縛過去自由種種暴力的意思。不過我又這樣想、在我們東亞過去的時代、有沒有可與英美文化比肩、並且較比英美更爲光榮的時期呢？或切斷排擊出美的侵略

有過了哲學嗎？況且我們的哲學、又較比他們純以個性或個人爲之體的觀念、更是不相同、我們是以道——人倫的常道、天地的公道爲中心的。再以漢代爲例來說、從中國、滿洲、朝鮮、各地古墳發掘出來的漢代文化遺跡、以較歐洲西歷二三世紀的文化、實在是高尚優秀的許多。歐洲婦女們所最喜歡的綢緞、也全是我們東洋所傳過去的。尤其是魏晉南北朝時代、亦較比歐洲黑暗時代優越許多、這可證諸東洋歷史學者的論調即可明瞭。

唐宋時代的文化大觀、美英學者啞然失色、這是人所週知、固勿庸贅。又如元代、乃東洋勢力、遠達歐洲的時代、侍從元世祖忽必烈的外人瑪爾可包洛、看中了元朝的首都、上都、驚爲世界最大美的都會、數爲天上所有、地上所無、而誇賞弗止。至於明代、清代、那時代的文化、也未會亞於歐洲這可一看從歐洲派遣而來的天主教宣教師們、尤其是在大東亞戰爭以前而來的宣教師們、終不能固守他們本國傲然的生

活樣式、漸次而爲東洋化、這就可明白大半了。

世界三大發明、任誰都知道是火藥、羅盤針、及印刷術、可是這三大發明的人、也完全是東洋的人們。

再是我們也可以看親邦日

的團體、融合歸一、崇高優美以迄現在。尤其是在此一百數十年之間、受着美英的侵略、行將衰微的東洋文化、仍與西洋文化對抗、並且還能特異的繼續存在、全是因爲親邦日本儼然護持的關係。

照這樣來說、東洋在過去、確實是有過光榮的文化、並且也有過享受的自由、爲復興或解放這種光榮和自由、無論有如何的犧牲、我們也非得戰爭不可、因爲這是我們的責任、是我們的義務。從而爲這崇高的義務而戰、也就是現在的戰爭。假設這次的戰爭、若是失敗的話、東洋文化、絕對是不能再恢復它以往的光榮和自由了。不、東洋文化恐怕是不能再在這大地之上活「躍」而存立了。一切的完全是歐洲文化的亞流、輕薄的美國文化源々而來、遮蔽了東亞的天地。

我們的祖先所自誇的、以忠誠爲本義的國家生活、以孝悌爲中心的家族生活、像夫婦之和兄弟之友、朋友的信、這等道德、完全失掉了它的價值、變成動物的思想所支配的世界了。

孔子聖人、他認爲禮樂之邦若是被蠻夷紊亂起來了、簡直比死還可怕、他會這樣說過、一微管仲吾其披髮左衽矣、這是告訴我們風俗若是夷狄化了、那實在是令人難忍、無上的恥辱。況且美英要拿他們和我們完全不同的異質的文化、

只今私は東洋文化の危機を

出張 隨筆

豐寧縣十勝蹟(下)

伏 量

五、寶蓋寺

豐寧縣鳳山村東、四里許、有屯名洞山灣、背依高峯、其式似鳳、名曰鳳山、其山半中有石洞方可容人、鑄石像十七尊、創自何年、無從考察、據傳清乾隆中葉、有僧人一名、年不滿四十、入洞後、除向西禮拜、即面西端坐誦念南無阿彌陀佛、餘經一句不讀、其後該處突發異香、此僧同時端嚴而逝、因無人再來繼住、洞亦遂封、至嘉慶元年、旗人寶德蒞宰斯邑、於二月初五日、時值夜半、伏枕朦朧、恍若有神來顧而言曰、扇戶日久、囑令復開其穴、醒後遂於次晨易服而往、命工人開洞開之、見其中有一觀音、勢至、阿彌陀、及羅漢等像若下尊、當即商同邑之善信、復資創寺、因其為寶公倡之、故遂名寶蓋寺、該寺現在亭臺殿宇俱備、風景異常幽雅、惟無大德法師住錫、致使諸多遊山者、在此佛門勝地不能得嘗法味、未免憾甚、料將來各關係方面、定有相當計畫、以資隆盛云。

六、八郎墳

八郎者、姓楊氏宋朝令公業之第八子也、其故在豐寧街(即

舊名大關)東北十里許、山勢

雖不甚雄峻、然踞此而俯視四圍諸境、均歷歷在目前、溯河自北來流、出其下、縈環如帶、每當春秋佳日登覽其上、亦快事也、河西岸為八郎府、自宋初迄今已千有餘載、其宮第遺址尙皆有跡可尋、故高一丈八尺、矗立山巔、與撒袋溝之駙馬山、遙遙相對、相傳八郎自金沙灘敗後、即投身北國、遼主甚尊禮之、日見寵信、招為駙馬、其與公主結婚之處、即世俗所稱之駙馬山也、但其事雖不見於正史、而按該縣舊濟寺禪院之古碑所銘者、寺址當日為遼蕭太后對避暑離宮之遺址、寺外對西山建有太后之梳粧樓等語、照之、亦頗為相當之考稽云。

七、文筆塔

豐寧縣址西南川、有地名岸口、距新縣街(即舊大關)一百四十餘里、其附近山巔上、有古塔一座、為前清同治十三年、邑宰陳本植所造、高約三丈餘、路河自北來、出於其下、每當夕陽西下、塔影輒倒映河中、形酷似筆、又以陳公建塔之際、意在振興文化、開啓愚蒙、故名之曰文筆塔、惟當時

匠人未明此旨、竟將所定之高度改矮三尺塔身、塔尖均與筆不稱、以此未得其宜、文化不昌、若稍高則可以塔為筆、以河為硯池、其文化當至可發矣、今則河道東移、去塔稍遠、更不似當時之景象云。

八、奉仕嶺

奉仕嶺原名松樹梁、在新縣街(即舊大關)北、為由鳳山村通縣衙之要路、山勢曲折迴環異常險峻、昔時往來豐鳳間者、步行則多取道於三道梁、及七道河梁、車行則必繞道於上黃旗、費時耗力、旅客多苦之、自此嶺開建後、由鳳至豐僅相距一百四十里、較原路減省時力甚多、是嶺修成於康熙七年二月、全長為二十里、費款約兩萬圓、修工者計共達三萬五千人、其工程之浩大、實少倫比、惟當修建之時、其附近十二個村民、欣然前來奉仕者甚夥、故改稱如是之名、以表紀念云。

九、喇嘛山

山在縣西北六十里、勢甚突兀、其南坡石壁峭立若屏、上刻佛像一、雖自遠方觀之、亦甚明顯、有石洞在山之上部、內頗寬敞、四壁黢黑、似有烟火氣、其通山下之徑、曲折若羊腸、並於石徑上、多鑿石窩、僅容人之足、故往來殊不易登、相傳石洞即為喇嘛僧修道之所、當清康熙四十年、帝來此巡幸、喇嘛僧欲銜其神通、以邀封贈、乃在山頂石壁上、行走如

飛、帝望之駭然曰、若墜山下難免齏粉、語畢、即見僧落崖而死、帝深憐其修道之幾成、因令人刻像於石、以垂永久、其下有坎高立、謂亦即是僧之墓云。

十、義壘

縣北一百一十里、有嶺曰義壘、自底至頂、盤曲紆迴、約有三十餘里、每經一山灣、氣候即為之稍異、比至極頂、則寒氣凜冽、毛骨悚然、俯視四圍諸山、直如無數丘陵列於目前、過壘後、而又廣闊坦平一望無際、在昔交通梗塞之時、經此壘者、一切運輸皆駝驢馬馱負、無不嘆恨其蜀道之難、自我國肇建後、各地產業極待開發、首在建修道路、因以康熙四年夏季、開始興修、計共歷兩個月之久、費款五萬圓、始得竣工、以人民之倡義而興修也、故遂稱為義壘、且對塞北產業開發、文化振興、及蒙疆各地交往等、確乎裨益良多。

我國自建國以來、道義工作的表現、不可勝數、如本文所載之奉仕嶺、義壘等、僅在豐寧一縣之勝蹟內、即有二處他如國道興修之奉仕、幾在全國皆是、只此數端、即可表現國人民俗之敦厚好義、見義勇為之一般矣、仰或王道政治之優良事蹟也、深願國人今後更益加奮勉、諸善奉行、好事多辦、為私為公、兩有裨益、則民俗必日厚、國政必日興、而國家亦日強矣。

釋迦牟尼佛

不領收的東

西(佛說四十)

壽 軒

這是當釋迦牟尼佛、正在弘揚他的教義的時候、在印度釋迦相對立的宗教、可以說就是婆羅門教了、婆羅門教有一個教徒、他到處去說釋迦的壞話、污穢釋迦佛、想推翻佛教可是這種破壞釋迦的壞話、被釋迦的弟子聽見了、就非常的不氣、他想老師(釋迦)怎麼一點亦不反駁呢、可是他老師(釋迦)一點不介意、於是他就非常的焦慮。

終於他將這個說壞話的人、(婆羅門教徒)給拉到老師(釋迦)的跟前、但是當這個時候婆羅門教徒、對於釋迦還是一味的傲慢、不講情理於是釋迦和婆羅門的教徒就作下邊問答釋迦(我向閣下質問一個問題、譬如向別人贈送東西的時候、可是對於所送的東西、如果對方不領收的時候、這個東西可算是誰的呢?)
婆羅門教徒(那何用說呢、那自然是送東西人的東西了)
釋迦(那麼、閣下到處贈送我的壞話、可是我並不拜領、這種壞話還是閣下的吧)
這樣的一問答、婆羅門的教徒深覺慚愧、以後也就深心的皈依釋迦了。

中央國民教化委員會連絡會

道、回、天理教、道德會等團體受表彰

國內之各宗教、化團體，從前國民即以忠誠心，增進備著，航空機納，論字等運動為中心，協力救國策之進行，在過去之成績異常宏大，頗得政府或國民之信賴，而各團體於收功後，益行伸張政府指導，運化運動，洋場精進，決使我國國策之進行無阻也，當於十二年度伊始，文教部當局，為討論決定本年度宗教教化運動之方針，自本月八日午後一時起，在文教部第一會議室，由歐教司長以下關係官一並出席國民教化委員二十餘名出席下，舉開本年度第一回國民教化委員會連絡會，國民化後，首先將去年度各團體奉化收功成績之滿洲道會、滿洲天理教協會、滿洲天理教協會、滿洲帝國道會、於國中次長，並款司長之詞詞後，然後由歐教司長對本年度新開展之國民教化方針（臨時舉國五大運動）並本年度政府對各團體之指導方針，詳細加指示，更對天照大神奉祀之件，並未申請寺廟以及前教者呈報等件進行熱烈之懇談，五午後五時許始行圓滿閉會，並錄誌本年度國民教化戰時聯絡五大運動如次：

- 一、國民教化挺身運動
- 二、大東京戰爭意義之開明
- 三、大東京共同工作隊之成立

- 四、必勝防禦體制之確立
- 一、自衛防禦體制之確立
- 二、對於寺廟教會等施設確立非常時利用之計畫
- 三、航空機納運動

- 五、國民道義確立運動
- 一、國民禮法之普及
- 二、親切運動之展開
- 三、識字運動之徹底

在可列的戰局下，聲言「我們挺身到戰力增强的第一線上去」而由去年春季以來即奮起挺身之全滿各宗教教化團體，自其挺身戰以來，獲收成績大，所以文教部當局，此次乃對各勤勞挺身隊中的優秀團體，滿洲天理教協會、滿洲回教協會、滿洲天理教傳道場、並滿洲回教協會等團體，加以表彰，其表彰式已於月之八日

關於以上各項，對國民教化本來之機能而使之挺身活動

- 一、增進報國運動
- 二、國民使其認識戰時增進之重要性同時各團體自體組織增進挺身隊向農工礦方面活躍，俾於戰力之增強有所裨益
- 三、備戰報國運動

敎化國民使其認識戰時備戰之重要性同時各團體自體組織

假文教部講堂，於本年度第一回國民教化委員會中央連絡會席上，由歐文教部大臣對各團體之代表者，授與表彰狀及獎金，並將四團體之主要業績誌左：

△滿洲天理教傳道場：自二月二十六日至十二月共動員信徒五百名，行軍隊之白衣修練作業，並於七月二十六日至八月之間，動員信教團員名，赴奉天奉天，自十月一

民對於國家所有最大的義務

- (一) 獻金 (二) 儲蓄 (三) 增進 (四) 愛國心

2、關於中央教化研究會組織

- 一、應制定中央教化研究會會長之印章一枚今後凡公文函件會計等事項均蓋印施行以昭信守而資整齊
- 二、每次由當番者將印件及記錄案件等均收受其下次當番之團體輪流掌管以清手續

召集討論施行之，而地方研究會每次議案亦呈交中央研究會互相稟報今後積極實施以資強化俾有系統

- 四、應備品凡研究會每次會議時用備品如茶碗、覆子、及裝文具印件公文等用之提匣以及簽到名簿卷宗簿對等均應備置
- 三、今後地方分會各團體設辦事處於各縣地方分會一專應請求對一待遇同免出佈之件

因鑒於以往各縣地方分會對於自給農場出荷情形不一，擬請求統一辦法，凡屬自給之農場即應請不出荷，以期自足自給而盡國民勤勞報國之誠。

第十次 中央國民教化研究會

中央國民教化研究會，第十次例會由五台山佛敎總會主辦，於二月十日午十一時起，在協和會館舉行，出席者有：小竹敎化部長、協和會唐實慶部長、河村、莊兩參事、王本部長、團長同有各團體代表二十餘名，一同會後，當就

力精而為本旨而活躍於各分野，勤勞除依各團體之性格，更斟酌其特長，而分赴農、工、礦、鑛山、救護等係軍指大部，市而行組織空襲時之救護工作，此種討論終了之後，開午餐，於午後一時半再開，當就各團體之提案，更行深刻之討論，茲錄討論詳情如下：

1、關於決議下國民應有之覺悟與義務

今日之戰局日益激烈我們宗教教化團體，利用我們宗教的精神與奮起，實際的廣佈本教

對於自給農場出荷情形不一，擬請求統一辦法，凡屬自給之農場即應請不出荷，以期自足自給而盡國民勤勞報國之誠。

組織要綱，有所商討，當經決定各團體之性格而組成講演、勸勞、救護等班，講演班以昂揚國民士氣奮奮增強戰

悟與義務

今日之戰局日益激烈我們宗教教化團體，利用我們宗教的精神與奮起，實際的廣佈本教

研究會，均仿中央辦法，次由中央研究會將記錄案件轉達地方研究會會長

對於自給農場出荷情形不一，擬請求統一辦法，凡屬自給之農場即應請不出荷，以期自足自給而盡國民勤勞報國之誠。

協和會全國會員大會

協和會之第四回全國會員大會，於本月二十日在國都協和會館，由一般代表二百六十名，並各級本部役職員代表多數參加，下盛大舉行，大會順序，係於午前九時二十分一同入場，同三十分由坂田總務部長致開會宣言，隨即由協和青少年吹奏樂團伴奏，全體奉唱國歌，向建國神廟、宮城、帝宮遙拜，吹奏樂團再吹奏中，全體虔誠對戰歿勇士並前線將士感謝辭，張會長、三宅中央本部長分別捧讀日滿兩文之國本奠定詔書，並協和會勅語，繼由日滿系兩代表發聲則讀協和會綱領，全體一同唱和，終了後，會長對協和運動功勞者之個人團體加以表彰，至十時二十分閉會式終了，一同休憩，十時三十分再開，由三宅本部長就議長，而進行議事，首為對日滿宣言感謝決議，繼由張會長宣示會行動綱領，隨由三宅中央本部長說明會行動綱領，至此大會午前中行事終了，午後零時三十分再開，對會行動綱領實踐方針進行協議，嗣由會長統裁指示後，由會員代表表明決意，共同議決後，遂任命實踐決議及大會宣言起草委員，午後四時起休息二十分，間再開會，由三宅中央本部長發表實踐決議案及大會宣言案，以及對奧亞國體聲明電文，繼

全國文教科長會議

本年慶全國第一回文教科長會議，繼九日於文教科舉開之，民生廳長會議之後，自十日午前十時許於文教科第一會議室舉行，首由文教科當局，關於學校勤勞奉仕運營、國民體育指導、教師並教育關係者錄成語學章檢定、國民教化關係指導等十四項，加以指示，繼續說明公立初等學校教師被服貸與學生制服、師道學校之營

煙務擔當者會議

共商拒毒

我國政府，為順應國民禁煙運動，已在本年一月一日正式設立鴉片斷禁協會，而向政府鴉片斷禁方針及國民禁煙之途上邁進，茲為檢討本年鴉片斷禁諸方策，特於九十九兩日間，假民生部講堂開煙務擔當者會議，當日出席者中央側有禁煙總局長、同副局長、各科長、鴉片斷禁協會理事長、理事、及各課長，地方側有各省煙務擔當官、鴉片斷禁協會各省代表、各省康生院長，第一日午前十時開會，行國民禁煙誓詞，禁煙總局長訓示，鴉片斷禁協會理事長致詞，然後由總局長張煙政

首都道德分會

禁煙班將開講

新京道德各分會，為協力政府實施之鴉片斷禁政策，救沉淪於黑籍之婦女鴉片癮者，自去年即開始於各分會創立婦女戒煙班，利用東光劑一月滿期先後會戒除數班，收有良好成績，今年度各分會，仍援例舉辦，第一班於三道街總分會內，第二班於大同區道德分會內，第三班於長春區道德分會內，第四班於大屯道德分會內，第五班於和順道德分會內，現已開始報名，三月一日開班，其成果願者期待云。

養文 成教 戰部 健定 全武 國道 民章

文教科當局，為錄成戰時下體力健全之國民，特制定武道章，日內即以部令公佈施行，該武道章與日本厚生省現所施行之武道章有同等價值，凡年齡在十五歲以上廿五歲以下者，均有報名享受檢定之資格，科目分為劍道、柔道、射擊等，應各人日常習練之程度，分為上級、中級、初級三種，經檢定合格者，即分別發與武道章，並以其成績記入體力手帳。



萬壽節之佳辰 建國神廟執行節祭

【新報】當非島呂宋島苛烈決戰之際、六日於四千五百萬國民奉祝裡恭迎

陛下御臨帝室內建國神廟、肅躬行萬壽節祭、神域有山田關東軍司令官兼全權大使並張國務總理大臣以下日滿文武顯官列席御儀由橋本祭禮府總裁以下之奉仕而行開始

陛下於附近者之扈隨御臨神域午前十時親進至建國元神之前參拜、山田關東軍司令官兼大使之拜禮

皇帝陛下還宮後日滿參列諸員代表之拜禮畢、御儀終了。 泰慶紀元節佳辰 御親拜建國神廟

【新報】三月十一日恭逢親邦日本紀元二千六百零五年之紀元節佳辰、伏聞 皇帝陛下為慶祝此佳日、將於該日午前十時、親臨建國神廟、親拜建國元神 天照大神並祈願親邦日本國運隆昌大東亞戰爭早日完遂、皇帝陛下自大東亞戰爭勃發

以還 宸衷軫念時艱、平居宵旰衣食、垂範萬民、並關注戰爭、常親拜建國神廟、祈禱聖戰早日完遂、值於紀元節佳辰又復親拜、建國神廟、仰望 皇帝陛下敬神誠篤、誠使四千五百萬國民誠惶誠恐、感激無已焉。

慶祝親邦建國紀念

【新報】親邦大日本紀元節日我全國各地、懸日滿兩國旗、慶祝親邦建國二千六百零五年之佳辰、上午十時、於皇帝陛下、親拜 建國神廟之時。全國國民一齊遙拜神廟、向 建國元神祈禱戰爭完遂、與日滿兩國運隆昌表示日滿一體滅敵之所決意是日也、國都新京、關東軍司令官於上午九時半在山田軍司令官大使以下參列、恭對 御影行奉拜式典、繼之薦任官以上之滿洲國日系官吏奉拜、國務院則於十時半、在講堂由張國務總理武部總務長官以下參列、舉行慶祝紀念式典、其他日滿各團體學校等、亦皆分別舉行慶祝式典云。

社會事業當局 發放濟貧資金

【安東】安東市社會事業局、於客歲十二月十四日實施歲末

同情金募集運動以來、由於市民發露同情之心、解囊捐助、共計二萬五千餘圓昨已分配至各分區由分區長發給貧民、其分配金額如次

日系三戶每人五圓計三百五十圓 鮮系一一一戶每人十圓計一千一百圓 滿系八九四戶三千一百八十五人每人七圓 計二萬二千九百九十五圓育嬰堂二百七十六人每人三圓計八百二十八圓 博濟慈善分會七十七人每人三圓計二百三十一圓 厚生工廠十四人每人三圓計四十二圓 增產戰士一千 總計金額二萬五千八百五十六圓

社會奉公週間

【牡丹江】社會事業奉公週間於市公署協和會、社會事業協會共同主辦、滿赤、滿日及康德新開館贊助之下業自一月二十七日起、互全市盛大展開、其目的在於滿洲戰時下之社會事業固勿待言、使市民竭盡精神、關於事業戰士職金扶助、俾其生活安定一意奉公、籍資促進戰士力增強、實為例年僅為救濟貧困市民之意義大為不同故自週間以來、即以社會事業奉公週間實施委員會長為主體、廣向一般普及週間之趣旨募集慰問金及慰問品演劇募集救濟金、對勞務者實施免費治療、是以全市熾染一大決戰奉公彩色、欲增強戰力必先鼓舞產業戰士之士氣、殆為市民新深切覺悟矣

演藝大會開幕

【牡丹江】牡丹江市社會事業奉公週間之際演藝大會、由牡丹江市民演藝團全體出演之下已自週間展開、首日一月二十七日、畫業兩場、在新安國民會館堂、揭幕、此二日間所演出之舊劇、不惟演藝團大顯身手、頗得觀眾好評、即以客出資且出演之劇團哈爾濱之鄧鳳氏、亦發揮所長與大會平添不少聲色、可謂紅花綠葉、相得益彰、對週間之劇金運動寄與一大助力

造福觀音聖像 奉建金將募集

【奉天】依皆川奉天省次長為中心、籌備建設中之造福露天觀音菩薩聖像、一切手續已準備完了、決定由本月二十日起自四月末實施建金募集、居住於奉天市內之住民每戶三元、樂於多捐助者隨意、希仁人君子慨解仁囊共成善舉。

對回民勞働者 家族補給資金

【錦州】回教協會錦州市分會

俾自動供出之勤勞報國隊、於現地阜新工作、毫無後顧計、特由市回教有力者、實地組成勤勞報國隊後援會、募集補助金現開後援會云、大體已告成功、計分特等、甲等、二等三等、據云全市四回民經營之大陸、滿洲之國民會館特等、李翰卿外一名之國民稍具資金者為甲等、其他散戶數十戶為二等此外則為充任市班組長或奉公隊員等、對此決行加以相當補助、綜計以上、預定可收相當之額數、對於供出之勞工家族、可作小事補助、並據云勞工家族之配給品領取、婚喪事務之協助、亦多是回民固有習慣、加以後援、以故後援會之發展、繼前次自興運動之後、可謂之三全其美云

決編成特別勤勞隊 回協開支部長會議

【新京】滿洲回教協會本部、決於三月四日上午十一時、在本部事務所開全滿支部長會議、計劃本部總監王殿忠上將、于會長各支部長廿餘名、及其他文教部、協和會、警務總局等各關係機關代表等均出席、會議決戰下宗教之化國體應負之使命、及其實踐之方法、計劃決定動員全國信徒、編成鐵工開拓特別勤勞隊、以協力戰力品之生產、而期望戰之早日完遂、想當日之協議、定收預期以上之成果云。